

# 若者の定住と働き方を考える 地域円卓会議 in 宜野座村

IT? 農業? 村はどこで若者を受けとめるのか

# 実施報告書

日 時: 2017年2月27日(月)18:00-20:30 場 所: 宜野座村文化センターがらまんホール

主 催: 公立大学法人 名桜大学、国立大学法人 琉球大学 地域連携推進機構

# **ACTIVITY REPORT**

# 【報告】若者の定住と働き方を考える地域円卓会議 in 宜野座村



■日 時:2017年2月27日(月)18:00-20:30 ■場 所:宜野座村文化センターがらまんホール

■着席者数:9 名(論点提供者、司会、ファシリテーター含む)

■主 催:公立大学法人 名桜大学

国立大学法人 琉球大学 地域連携推進機構

■来場者数:46名(行政・大学・企業・NPO・市民)

■協 力: NPO 法人まちなかわくわく研究所

公益財団法人みらいファンド沖縄

■お問合せ:公立大学法人 名桜大学 エクステンションセ

ンター 地域貢献連携課

# 論点提供 當 眞 修 氏 (宜野座村役場 企画課 主幹)

# IT? 農業? 村はどこで若者を受けとめるのか

宜野座村は、北部広域の市町村の中でも稀有な人口増加地域です。IT 産業への投資、農業人材の育成に力を入れています。集落の風情や自然を活かした観光業への期待も高まり、いずれの分野も若者の活躍場所となることが予想されています。今回の円卓会議では、「持続可能な若者の雇用の場」を創出するため、「仕事の創出とチャレンジの場づくり」について話し合います。統計等の事実情報を共有し、各団体や事業者の方々の様々な視点から意見交換し、共有します。円卓会議で得られた情報は構造化され、今後の解決に向けたアプローチの基礎になります。さらに名桜大学を始めとした大学との連携を議論します。宜野座村の「仕事の創出とチャレンジの場づくり」に興味のある方は誰でも参加できるオープンな会議ですので、是非ご参加下さい。

#### センターメンバー



當眞 修 宜野座村役場 企画課 主幹



仲本 仁 漢那区 区長



大城 拓真 名桜大学 4年次学生



林 優子 名桜大学 国際 学群 経営情報 教育学系 上級准教授



宜野座 達哉 農業後継者育 成センター センター長



城間 鉄也 宜野座村 IT オ ペレーション パーク 事務局長



仲間 赴人 宜野座村観光 協会 事務局長

# ▶ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

# 事実の提供

- 宜野座村の基礎情報
- ✓ 人口(平成27年)5,511名。人口増加中
- ✓ 出生率 2.4%(全国 4 位、沖縄本島内 1 位)
- ✓ 高校以降の就学場所がないため 10 代後半~20 代前半 は転出者が多くなる
- ✓ 村外で一端就職するが、村に戻ってくる 20 代後半~30 代後半の転入者が多くなる
- ✓ 村民の従業者数は総数 2,413 名。最も多いのは、農業と 医療福祉系になり各 371 名
- ✓ 農業従業者、平均年齢 56.4 才、60 代以上が 5 割
- ✓ 医療福祉従業者は漢那区の病院、又は村外の病院で働いている
- 結婚した時にパートナーを村に連れてくる。その為、出 生率が高くなる
- 宜野座村の区では区長、会計、書記、公民館主事が常勤 で給料制である
- 区長職は数多くの年間行事(産業共進会、区民運動会、 各団体の行事)を立案、運営をしている
- 交通のアクセスが良いので、村に住みながら村外で働く 若者が多くいる
- パソコンに馴染める環境をつくる為、漢那区の単独事業として、平成 14~24 年度までで、139 名の方にパソコンの購入補助をした
- 自宅から名桜大に 40 分程度の車通学をしている
- ・ 宜野座出身の名桜大学4年生は5人以内
- 宜野座高校の同級生は100名前後、その中の村内希望は 20名程度である。しかし、村内で働きたいが、仕事先が 見つからず、アルバイトをして生活している
- 大学生になっても時間があれば、区民運動会、豊年祭の 運営に参加している
- 若者も、青年会で考えて動き、区の行事に積極的に関わっている。
- 松田区では、現地ガイドの養成等を行っている。鍾乳洞の探検ツアーに来たお客さんに、住民の皆さんが現地の 案内をしている
- 子育て世代が地元に戻っても、北部だと、名護等の子育 てに便利な場所に住むことになる
- 県外出身者は大型店舗、病院、教育環境を気にする為、 空アパートは紹介しても、定着に結びついていない
- 本当に農業が好きで、やる気があり、頑張れば、農業で 生活できる。売上を上げている人もいる

- 農業後継者育成センター
  - ✓ 平成12年開所の村営の施設で、農業の基礎、実践、経営の研修を、日当を貰いながら2年間学べる。国内でも手当を受けながらの研修は少ない
  - ✓ 家が農家の青年、農業の経験がない青年、本土からの 移住者等が来ている
  - ✓ ファイナンシャルプランナーが月に2、3回来て、ワン ツーマンで指導している
  - ✓ 毎年 2~4名の卒業生(年齢 35歳~40歳)がいる。最 近は、卒業後に100%近く就農できている
- 耕作放棄地、遊んでいるビニールハウス等の土地はあるが、貸してくれない。研修生の希望通りの土地を探せないのが一番の課題
- 手間のかかる作物だが、イチゴが有名になっている。観光とも結びつき、換金性が高く、収入が見込める
- サーバーファームは、村が整備した施設。民間企業が、 17室中の9室に9社が入居し、300名弱の従業員(20代~50代前半)を受け入れている。宜野座村出身の従業 員は35名である。宜野座村と連携して、県内外で、誘 致活動を続けている
- サーバーファーム内の企業で村民を雇用したいが、企業 のニーズとマッチングするかの問題があるため、人材を 育成する事業を今年度から展開している。名桜大生向け に企業が講話をした実績もある
- 観光協会は職員7名の体制、村からの助成金を使用。修 学旅行生の受け入れ、民泊体験、マリンスポーツ体験、 農業体験等の案内、県外でのプロモーション活動をして いる。今年2月の阪神キャンプでは10万9千人に来た。 キャンプに来た方に、イチゴ狩り、松田の鍾乳洞を案内 している
- 観光協会はサーバーファームと連携して、夏休みに屋上で、星空の下でのそろばん教室や、施設案内をして、子ども達に仕事を伝えている。博物館とは、紙芝居と星空観察のツアーをしている
- イチゴ狩りは予約制で、朝から晩まで電話が鳴りやまない。また、それに見合う規模のハウス建設が間に合わない
- マンゴー狩りや、じゃがいも掘りができないか、との要望や、イチゴ狩りに来た方から、村の観光地について問い合わせがある
- 宜野座村には宿泊地がないので、ホテル誘致をしたい

# 評価の提供

- 近くに親族、地域住民、親の支援もあり、生活しやすい いちご狩りで農家も潤い、来た人も満足している コミュニティである
- 地域のコミュニティがしっかり息づいている
- 宜野座で育った子が、宜野座ですみたいという流れはあ
- 若者の地元でやりたい仕事がない
- 村の半分が米軍の演習場の為、区も村も少し財源がある が、依存するのではなく、将来に向けて自主財源をどう 確保するのかが課題
- サーバーファームの類似施設が県内に増えてきているの で、差別化が必要。那覇市では施設使用料が高いが、宜 野座村では安価である。また、村との連携設備や、自然 環境の良さがある
- 役場は総合計画の中で動いている為、各部署と繋がりは あるが、もう少し連携を取れたらと思う。しかし、日々 の業務で忙しく、横のつながりを誰がやるかが課題

# 視点の提供

- かりゆし カンナ タラソ ラグーナと連携した形でのホ IT を通じて物をかえるが、地元に足を運んで購入してく テルが必要
- (配慮が必要)
- 何の仕事をするかは、働き方の軸はどこにあるかの問題 で、場所はあまり関係ない
- パソコン一つで情報発信することは若い人でもできる。 しかし、当たり前の情報はいらない。村で出来たものを どう発信するか
- 若者がすぐに農業をするのはなかなかできないので、IT 観光協会は一番、機動力があり、IT や農業などを結びつ や観光と結びつくべき
- っているかいないか分からない農家も多い。ただ作るの ではなく、数字に残し、しっかり経営しないといけない 時代がきている

- れる循環を作る
- 村は静かな平穏な場所でもあるので、住環境は守りたい イチゴ狩りにきたお客さんに、鍾乳洞や漢那パークゴル フ場、スイーツを食べる等のセットメニューを提供して はどうか
  - 漢那には、パークゴルフ、道の駅、ダム、タラソ等の客 を呼べる施設はあるが導線がない。そこのコーディネー トする人がいれば良い
  - 宜野座村にあった観光パッケージができれば良い
  - ける役は、観光協会に期待している
- 宜野座村は農業立村で、基盤整備をやっているが、儲か 役場では日々の業務が多くあり、役場の部署間に横串を 刺す等の、新たな事業をするのに二の足を踏むところが ある。その為、村長としても課題意識があるので、しっ かりと役場を支えていけるようにする

# ▶ 今後のアプローチの方向性(提案)

- 観光協会と役場が中心となり、各産業間の強み弱みを補う連携強化を図る ●連携
- 産業施策 観光と農業が連携したパッケージ造成や農業の IT 化等の具体的な施策策定に 大学の参加を促す
- 人材 サーバーファームのような資源を活かし、大学の機能を活かした、IT 人材育成と 地域課題解決寄与を狙う

### ■参加者によるサブセッション

## 「IT・農業・観光の連携、村はどこで若者を受けとめるのか」

## 会場発表 (3 グループ)

① Web カメラを使ってお客さんが 1 m<sup>2</sup>程度の畑でイチゴやトマトを栽培する。顧客は Web カメラを 通じて状況をいつでも自由に眺めることができ、肥料や水の量を遠隔指示できる。そして、収穫時 期になると顧客が宜野座村を訪問して収穫する。こうすることで、IT (ウェブカメラ)、農業 (イチゴ畑)、観光(収穫)の3つを使った付加価値の高い産業ができる。

## 【記載内容】

- ・農業、経費の問題 ・IT インフラの整備が完了
- ・カメラ、1口農園 ・現地訪問(観光) ・ふるさと納税
- ② IT を活用して農業、観光をより活性化する。それを連携できる人材を育成することが大切。

## 【記載内容】

人材育成 IT→活用→農······観

③ IT×観光×農業を一つに繋げることで、それぞれの産業が抱える課題を解決できるのではないか。また、地元の人では気づかない視点を、外の方から聞けて、このような場が大事だと感じた。

#### 【記載内容】

- ・タラソを観光としての PR→ヘルスツーリズム ・点と線をつなげる
- ・観光施設やスポットの PR や活性化 ・村の魅力 PR をもっと
- ・宿泊施設の充実 ・IT×観光×農業

#### 会場からのアイディア (記載内容)

- ・フリーWiFi(観光) ハウス等 IoT 化
- ・兼業農家多い さとうきび農家多いが儲からない マンゴーは稼げる
- ・事業者。カンと経験をデータとして蓄積
- ・グリーンベルト、いちごツアーなど、農業と 観光のマッチング
- ・観光客向けの食事処がない。村内客向けになっている。客対応があまり良くない。エリア分けすると良い。住民エリアと観光エリア。静か、何もない所に来たい人もいる。自然、環境。いちごをもっと伸ばして、スイーツ強化したい。マンゴー、野菜、料理、サーバーファームとの連携も更に強化。情報発信も。

# 若者の定住と働き方をテーマとした地域円卓会議 in 宜野座村 参加者アンケート集計

#### ◆概要

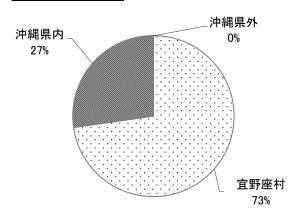
· 日 時: 2017年2月27日(月) 18:00~20:30

・場 所: 宜野座村文化センターがらまんホール

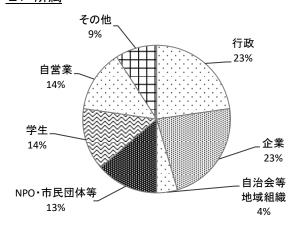
・着席者:9名(司会、記録含む)

・参加者: 46 名 (アンケート回収22 名、回収率48%)

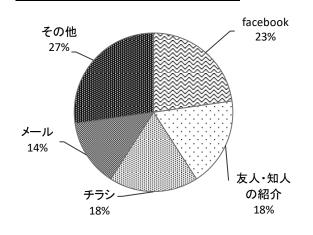
# <u>1. どちら</u>から?



#### 2. 所属



## 3. 円卓会議はどのように知ったか



#### 4. 満足度

平均: 4.7 (5点中)

5.満足	4.概ね 満足	3.ふつう	2.あまり 満足し てない	1.不満足
15名	6名	1名	0名	0名

## 5. 満足度の理由

(5. 満足)

- ・このような機会は初めてだったのでとても新鮮でした。課題、テーマについては異業種、村内外の方等、様々な意見が聞けました。この場をきっかけに課題を解決し、雇用の受け皿が多種、多様になり就職に関する選択肢が増えるのではと思いました。宜野座村の可能性を感じました。
- ・すごく勉強になった事。地域住民が考えている事が聞けた。
- ・ITと農業と観光っていっけんバラバラな分野で点というイメージが以外とつながりがあるんだなと感じました。様々な方のたくさんの意見がきけて、圧倒したのとすごいなぁと思いました。
- 様々な職種の意見交換を傍聴する事ができた。
- ・宜野座村の課題に合った話し合いでした。
- ・観光や農業の現状など聞けて勉強になりました。
- いろいろな課題が見えてよかった。
- ・いろいろな課題やこれから伸びそうな点も見 えてきた。行政ができること企業ができるこ と、協会ができることを積み重ねていけば「宜 野座村」の知名度、ブランドになると思う。
- ・アイディアや必要な情報、関係する人たちだけの共有では限界ああると思う。村全体で取り組むことも進めたほうが良いと感じた。
- 初めての会、参加でしたが、充実した時間を 過ごす事ができました。
- ・様々な業種、参加者の声がきけてよかった!
- ・意見がおもしろかった。

#### (4. 概ね満足)

- ・もっと若者 (18~35歳) の声がききたかった。 「若者が村にあったらよいなと思っている職 種は何か?」など。
- ・地域の課題等について様々な角度から考察し、 その解決策について模索することができたと 感じたので。
- ・村外、県外、学生、教育者等と意見交換がで きて本村の認知度の低さを感じた。
- ・問題を提起する事、それを話し合うことは有 意義だと思う。

## (3. ふつう)

・そもそも方法を考えたとしても、ここに若者 が定着するのかが疑問です。

## 6. 印象に残ったこと

- ・ 宜野座センター長が最後に悩みと言っていた 件、PR役の受皿の強化も大切だと思った。 (予約受付、作付面積確保)。提案ですが、村 で雇用するのはどうですか?サーバーファー ム内コールセンターなど。
- いかに導線を作るか。
- ・作る、つなぐ、情報発信する人がいると良い

という司会の平良さんのまとめ。

- ・これだけ住みやすく、人口増も見込まれているのに「村内に働き先が無い」と言われる現 状は、大変もったいない。SFに入居するI T企業から、兼業農家が生まれれば良いサイ クルが生まれると思われる。
- ・全てが印象に残ったし、形にしていきたい。
- ・ 小グループで集団討論の方がもっといい意見 がたくさん出たような気がします。次からは このような時間を増やしてほしいです。
- ・観光協会を主体に宜野座を盛り上げるという 動きが活発でよいと思った。
- IT×観光×農業の連携について
- ・IT、観光も農業を連携を考えてると知って とても良かった。
- ・導線は、「観光協会」が主となりやっていくこと。行政も丸投げではなくバックアップしていく!!
- ・今後とも開催をお願いします。
- ・パネラー (村出身) の意識のグレードアップ が必要も。もっと村のことを勉強する必要あ n
- ・若者(名桜大学の学生)も招いて話し合った こと

## (写真) 会場の様子





















